

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所めだかミニスクール		
○保護者評価実施期間	2026年6月15日 ～ 2026年6月24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74 (回答者数)	47
○従業者評価実施期間	2026年6月15日 ～ 2026年6月24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年6月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者アンケートの『満足度』において、子どもは安心感をもって通所しているかが95%の肯定回答を得た。	日頃から、子どもとの信頼関係づくりを一番に考え、子どもの姿を丸ごと受け止め、気持ちに寄り添いながら支援をしている。また、特性に合わせた視覚的なスケジュール、手順書などの提示、楽しく通いたくなる活動の工夫。	全職員が子どもの微細な変化に気づけるよう情報共有し、だれが対応しても安心して過ごせる事業所づくり。常勤の公認心理師による多角的なアプローチ、個別プログラムの導入、きょうだいや保護者へのカウンセリング。
2	適切な支援の提供として、チームで活動プログラムを固定化しないよう立案している。また、支援開始前には全スタッフで打ち合わせ、支援終了後は振り返りを行い、気づいた点等共有している。	スタッフが全員揃う時間に支援前ミーティングを必ず行う。記録を取り、その日不在のスタッフは後日記録に目を通すことをルーティン化している。	現在導入している業務支援システムHUGを軸とした情報共有体制の高度化を図る。
3	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、健康や発達の状況について共通理解している。定期的に活動概要や行事予定などを密に連絡しあっている。	送迎時のやり取りに加えて、連絡やお知らせを業務支援システムHUGで行うことで、連携がよりとりやすくなっている。写真なども取り入れることができるため伝わりやすくなった。その日のうちに活動記録を入力、公開することで、リアルタイムに情報連携がとれる。	直接のやり取りを基本に、子どものことをより共通理解していくためにHUGをうまく活用していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者アンケートにおいて、家族への支援・きょうだいへの支援がされているかについて、はいの回答が51%と低く、きょうだい向けの交流会がないように思うというご意見があった。	土日祝日や長期休暇に親子行事を定期的で開催し、きょうだいも参加できるような機会にしているが、きょうだいが主役になれるような内容とはなっていない	保護者へのきょうだい支援に関するニーズ調査の実施、長期休暇を利用したきょうだい向けの交流会の企画・開催を検討
2	従業者評価において、『必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか』への課題が上がった。	施設の大きさに限界がある	パーティションやカーテン、小さなテントなどを使用して空間作りなどの工夫
3	保護者アンケートにおいて、放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子どもと活動する機会がかなり少ないというご意見があった。	年1～2回程度、eスポーツ等通じて交流会を開催しているが、内容によって参加者がかたよってしまう。	交流会内容を検討し、令和8年8月夏祭りを開催し交流を図る。回数についても、検討していく。